

生涯學習情報誌

Life Learning

2021
Apr.
NO.368

4

祝

2019年2月 明治大学博士号(人間学)取得

清水玲子さん(取得時55歳)

【論文テーマ】日本赤十字社参考館の研究

コロナ禍の現代にも通用する「博物館」の本質が隠されていた

■「博物館の父」21年の歴史がなぜ消えている？

清水玲子さんは大学講師として授業を持っていた。以前は美術史を教えていたが、学芸員養成課程のカリキュラムを担当することになり、2012年から博物館学も教えるようになった。その一環として日本の博物館の歴史を調べるうち、博物館法の条文にも登場する日本赤十字社の参考館について、歴史から抜け落ちていることに気づいた。「博物館の父」と呼ばれ、明治、大正、昭和の博物館事業を牽引した棚橋源太郎。その棚橋が設立に尽力し、館長等として21年間も運営にあたった博物館であるにもかかわらず、誰にも研究されていなかったのだ。

2012年から調査を始めたが、最初から博士論文にするつもりではなかった。調査を進めるうちに、日本の博物館の歴史にとどまるものではなく、世界の赤十字の歩みに深く関連することに気づき、日本赤十字社の資料室に通うようになった。そのなかで、2016年に母親が病気になる、看病の甲斐なく翌年に亡くなった。心にぽっかり穴が開いたようになり、このままではだめだと感じ、自分が生きていくために博士号という目標を課した。

■今よりもダイバーシティな博物館だった

学生と調査したところ、コロナ下でオンライン事業をしている博物館は16%ほどだった。戦時中にも関わらず、参考館は独自のイベントを公開し続けた。学芸員が食べられる野草を摘んできて展示し、食物研究所長が講演会でそれを調理してみせた。赤十字なので、高齢者の健康診断や衛生指導もす

る。ひじき入りパンの焼き方を提案するなどして、とくに女性や子どもが多く来館した。棚橋は、科学的見地により日々の生活を向上させることが子どもの未来につながると考えたのだ。

博物館とは何か、社会教育とは何かを知ることができる博物館だったが、GHQの介入後、棚橋が辞めてからは低調になり、戦後復興で沸く東京オリンピック開催の前年に閉館。資料も多くが捨てられてしまった。棚橋はラジオで講演会を放送し、来場できない人にも生きる知恵を普及しようとした。現代に生きていたら、休館しないで「コロナ撲滅展」をやったに違いないと、清水さんは推測する。

■SDGsから抜け落ちている伝統文化

清水さんは「未来の学びと持続可能な開発・発展研究会」にも所属している。SDGsに関する調



今はオンラインでの活動が多い。「オンラインは家から社会とつながれるツール」と清水さん。

査・研究を行なう中で、SDGsから伝統文化が抜け落ちていることに気づき、伝統文化こそ持続可能性の指標になり得るといふ観点から、研究発表している。SDGsやジェンダー指数など西洋の指標に引きずられがちな状況に警鐘を鳴らし、猿楽という名称がなぜ使用されなくなったのか、また、猿楽の多種多様な物語にみる、自然発生的な真のダイバーシティについてまとめたばかりである。また、伊藤若冲が描いた虫の絵から、日本の生物多様性がずっと昔から培われていたことを明らかにした。

「美術史的にはそんな論文はダメと言われるようですが、私の興味は、作家が誰で流派がどうというようなことではなく、社会において作品が生まれ、人々がどう享受したのか。なぜ、私たちが伝統文化を受け継いでいくのかというところ。現代に結びつけなければ意味がないのです」

■言説や権威に隠せず突き進んでいく

この博物館の記録がなぜ残っていないか。戦時中に庶民に寄り添った活動をし、学芸員の地位や給与も今より高かった。そのような不都合な事実を誰かが丸ごと抹消したかった。それが後世の研究から抜け落ちている理由かもしれない。

学芸員になりたい学生が就職できない時代。学芸員を置くことが法律で定められている種類の博物館でさえ、非正規の学芸員でまかないがちだ。正規の学芸員を増やせば、活動の質も就職率も上がる。博物館に関する研究は学生に夢を持ってもらうためもある。

1898年制作。画家をしていた安仁子が、姪・ロザモンドの10歳の誕生日に描いた油絵。
額縁縦69.8cm×横54.5cm、絵画（額縁の内枠）縦50.2cm×横34.7cm
SHEPLEY 1898
From aunt Poo To Rosamond Sergeant Ten Years Old Marion Mass.
と裏面に記載あり。

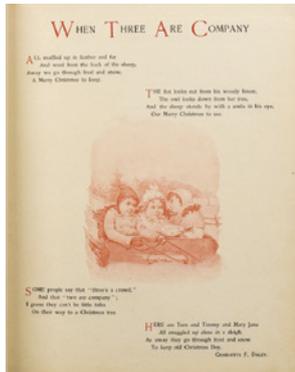
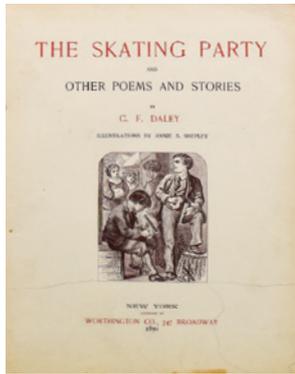


財団理念の源流・大森兵蔵と安仁子にまつわるご縁が発展中

当財団の源流とも言える大森兵蔵と安仁子（アニー・シェプリー）。2月号でご紹介した舞台「アニーさん」に続き、またまた素敵なものたちが財団にやってきました。上の絵は、アメリカで画家をしていた安仁子が、姪・ロザモンドの10歳の誕生日に描いたもの。左ページは、アメリカで出版された安仁子が描いた絵本や、日本の古典文学を英語に翻訳した書籍などです。これらが戻ってきた経緯やご縁、財団でも知らなかったエピソードを含め、ここに紹介します。

これらを見つけたのは、昨年11月に財団理事に就任した佐藤玖美氏。佐藤理事は松田妙子前理事長の次女で、松田妙子が日本初のPR会社として1960年に設立した、株式会社コスモ・ピアールの現社長でもあります。同社50周年の調査をする中でこの絵に出会いました。

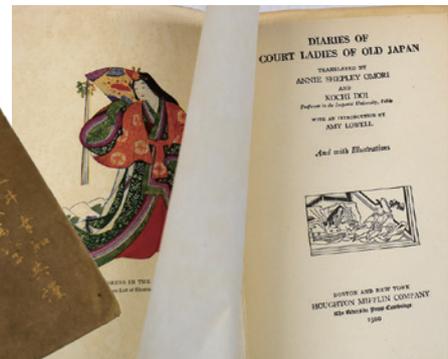
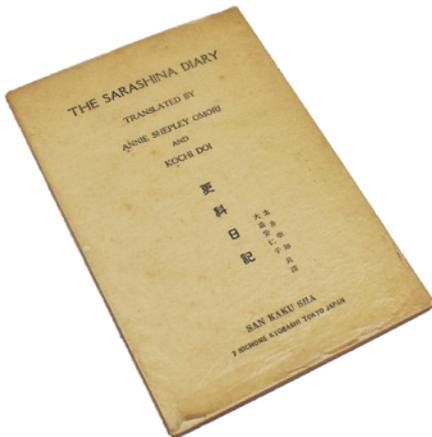
絵を所有していたのは、アンティーク時計専門店のメルシーウオッチ様。本誌でも紹介した、一昨年のNHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック噺〜」収録に用いる小道具の時計などを、NHKの依頼により用意したのが同店でし



Annie Barrows Shepley (大森安仁子) のイラストによる絵本2冊
『THE SKATING PARTY And Other Poems and Stories』初版本 (Daley, C. F.著 1880年頃)
『WHEN THREE ARE COMPANY And Other Poems and Stories』初版本 (Daley, C. F.著 1880年頃)

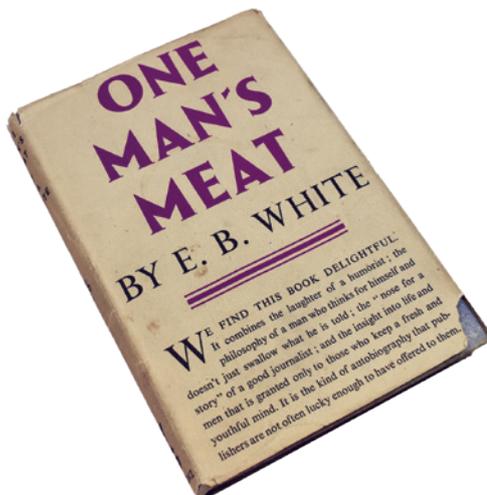


大森安仁子・土井幸知共訳
『THE SARASHINA DIARY』(更級日記
の英文本、1934年三角社発行)



大森安仁子が土井幸知と共に『紫式部日記』『和泉式部日記』『更級日記』を英訳した『DIARIES OF COURT LADIES OF OLD JAPAN』の初版本 (Boston Houghton Mifflin Company 1920年)

代表作『シャーロットのおくりもの』が世界中で4500万部も売れた人気作家・E.B. ホワイトの小説『One Man's Meat』の初版本 (1942年)。大森安仁子についての記載があるという。



た。その際店主が、ドラマに登場した大森兵蔵と安仁子に興味を抱き、アメリカの画商に問い合わせたところこれらを紹介され、記念にと購入したのだそうです。専門の時計ではなく、売り物ではなかったのですが、二人とつながる財団にならと、譲ってくださいました。

ロザモンドには、エルシー、キャサリンの姉妹がおり、キャサリンが結婚した相手は、アメリカの著名作家であるE. B. ホワイトでした。ホワイトの著書にも安仁子が登場しているものがあり、その書籍も一緒にやってきました。

松田妙子が兵蔵と安仁子のことを書籍に書き残していたことからご縁が發展しました。自ら発信していれば、運命のように巡り合うのでしょうか。